

庭のハッサク ―木の葉の心― 2020-12-14

庭に直径 2cm ほどのハッサクの苗木を植えた 3 年目には、2m を越す高さになり、師走には、径 10cm を越すほどの黄色の実が 20 個ほどたわわに成りました。その光景は、初冬の時期にホットした温さを感じさせてくれ、ハッサクを植えて良かったとハッピーでした。

ところがです。翌年は実がほとんど成らずがっかりです。ハッサクには成り年と成らない年があることを実感しました。カキやリンゴなどが隔年結果することは知っていましたが、ハッサクもそうだと知りませんでした。庭にあるユズとかナツカンなどは毎年よく成るので、ハッサクもそうだと思い込んでいました。やはり、摘果して適当に成り具合を調整しなければ毎年コンスタントに成らないのです。素人知恵の果樹作りで恥ずかしい限りです。

その成りの悪い年にさらに悪いことがおこりました。その 8 月に木の根元に木屑が溜まっています。やや！害虫が木の中に穴を作って侵入して、その穴の木屑を外に出しているのです。前年、ナツカンに同じようなことがおこり、木は枯れました。でも、あまりおいしい実でもなかったもので、木の枯れたことはそれほど残念には思わなかったのですが、今度のハッサクは枯れては困ります。早速、根元に殺虫剤を撒きました。木屑が出るのは止まったようです。

しかし、11 月中旬になると、今まで青々としていたハッサクの葉が、少し黄色味を帯び、やがて散り始めました。殺虫剤を撒いたのが遅すぎ、それまでに害虫は根元の樹幹を相当食い荒らしていたのでしょう。くやしい！残念！腹も立ちます。

8 割ぐらいの葉が落ちました。でも、不思議に葉の残っているところが 3 か所あります。よく見ると、そこにハッサクが成っているのです。残っている葉が必死で成っているハッサクの実を支えているようです。その木の葉の心に私はいたく感動しました。

生き物は、動物であれ植物であれ、その種を維持するために涙ぐましい工夫と努力をしています。少子化や児童虐待など現在いろいろの問題を抱えるホモサピエンスはどうなのでしょう。